

# 令和2年9月発足の菅義偉内閣にて 国土交通副大臣に就任！

(内閣府副大臣・復興副大臣を兼務)

## 岩井しげき通信



防災・減災、国土強靱化等の加速化・深化

令和2年9月16日に発足した菅義偉内閣におきまして国土交通副大臣兼内閣府副大臣兼復興副大臣を拝命いたしました。  
大変な重責ではありますが、



国土交通副大臣室での岩井茂樹

皆様のご期待に応えるよう、全力で担務に取り組んでまいります！今後とも変わらぬご支援をよろしくお願ひいたします。

### 喫緊の課題

まず、国土交通省は、国民の皆さまの安全・安心の確保。そして、持続的な経済の実現にも資するということがあります。

また同時に、豊かで活力のある故郷、地域づくりにも大変重要な役割を持つっており、幅の広い分野を所掌していることとなります。

今回、私は副大臣といたしまして、防災・減災、地域公共交通、建設産業、鉄道自動車、観光等を担当することになりました。

その中で申し上げますと、何と言っても防災・減災、国土強靱化等の加速化・深化、これをしっかりと図ることが我が国の喫緊の課題だと認識しております。

このため、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策を着実に実施するとともに、3か年緊急対策の後も骨太の方針に基づきまして、中長期的な視点に立つて、必要十分な予算確保をしっかりと行い、防災・減

災、国土強靱化にしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

また、令和元年東日本台風や、令和2年7月豪雨など、頻発する自然災害からの復旧・復興にしっかりと取り組んで行くことも重要な点と感じております。

### 地域公共交通の確保

次に、地域公共交通に関係した話ではありますが、まず、新型コロナウイルス感染症拡大による輸送需要の減少により危機に瀕している地域公共交通の確保、維持が重要だと考えております。

適切な感染拡大防止策を講じつつ、エッセンシャルサービスとしての機能の維持が図られるよう、引き続き関係省庁と連携し、これまで以上に強力で支援を行ってまいりたいと考えております。

### 観光の再生

また、同じく重大な影響を受けた観光の再生を図ることも重要な点と認識しております。

まずは感染拡大防止策を徹底した上で、「Go To

トラベルキャンペーン」の着実な実施などにより、国内旅行需要の喚起を図ってまいります。

その上で、コロナ後を見据え、インバウンドの回復までの期間を活用し、2030年訪日外国人6000万人等の目標に向けた取組を着実に進めてまいりたいと思っております。

### 担い手確保

加えて、建設業や自動車運送業などの国民生活や社会経済を支える重要な役割を有する産業につきまして、働き方改革や生産性の向上の推進などの取組を行い、将来の担い手の確保をしっかりと図ってまいりたいと思っております。

### 現場第一主義

赤羽大臣は、国土交通省の直面する様々な課題に対して「現場第一主義」、それでしっかりと取り組む姿勢を重視されております。

私も同じ姿勢で取り組み、国土交通行政がしっかりと前に進むように全力で取り組んでまいりたいと思っております。



記者会見に答える岩井茂樹  
国土交通副大臣

## 防災とまちづくりの一体化

ここ最近の台風、豪雨等の自然災害は、以前と比べものにならない程、大きくなっています。頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害ハザードエリアにおける新規立地の抑制、移転の促進、防災まちづくりの推進の観点から総合的な対策を講じることに喫緊の課題であり、こうした取組に併せて、生産年齢人口の減少、社会経済

の多様化に対応するため、まちなかにおいて多様な人々が集い、交流することのできる空間を形成し、都市の魅力を上させ、安全で魅力的なまちづくりの推進が必要との考えから、国土交通省では、令和2年の通常国会である第201回国会に「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律案」を提出し、国会にて成立いたしました。

「被害を前提にした「まちづくり」」、「「防災」を含めた都市計画」など、今までの考え方を転換させる「防災とまちづくりの一体化」に向けて、今後とも取り組みを進めてまいります。

## 防災に想う

こんには、岩井茂樹です。このたび、国土交通省・内閣府・復興庁の副大臣を拝命いたしました。国土交通省については、私の父も副大臣を務めていたことがあり、親子二代にわたりその重責を担ったことに改めて身の引き締まる思いです。

体での仕事など、これまでの経験を活かしながら全力を尽くす覚悟です。防災のあり方が有効だと感じています。東日本大震災の教訓を活かし、堤防を「粘り強い構造」にすることも国土強靱化の施策の1つです。加えてこのようなハード的な側面だけでなく、システム全体を強靱化することも重要だと考えています。

今年も「令和2年7月豪雨」が発生しました。豪雨災害が甚大化・頻発化する中で、引き続き防災・減災・国土強靱化のためインフラ整備は行っていかなければなりません。私もダム設計・現場監督、国交省の外郭団

「強靱化」という言葉は、何故「強化」では無く「強靱化」なのか？ 靱は読んで字のごとく、「革（動物の革）＋刃（鍛える）」＝靱（時間をかけてなめした丈夫で柔らかな動物の革。丈夫で柔らかい）という意味で分かりやすい言葉で言えば「粘り強い」ということです。私はこの考え方に日本人の知恵が隠されていると思います。柔軟に災害に対応していく。まるで武道の合気道の如く相手の力をかわしながら自身を守る。財源が限られる中、こんな

国土省が舵を切った「流域治水」の考え方もこれに当たると思っています。治水に関わる主体が連携をしながら、あらゆる方法を柔軟に施していく。我が国の国土、故郷を守る深化した防災に引き続き真剣に取り組んでまいります。

岩井茂樹



副大臣認証式で菅総理とともに

### 事務所のご案内

□国会東京事務所  
〒100-8962  
千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館520号室  
TEL:03-6550-0520  
FAX:03-6551-0520

□沼津事務所  
〒410-0865  
沼津市東間門1丁目2-5  
TEL:055-943-6122  
FAX:055-943-6123

□静岡事務所  
〒420-0034  
静岡市葵区常磐町2丁目4-25  
YCビル3F  
TEL:054-266-3770  
FAX:054-266-3780